

平成25年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4～6月)

医動物担当では、人の健康を害したり、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成25年4月から6月の種類同定検査件数は、11件でした。内訳は昆虫類10件(コウチュウ目2件、ハエ目2件等)、その他の節足動物1件(ダニ目1件)でした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
商品の包装内に虫のようなものが入っていた	 脱皮殻、茶褐色、約5mm	カツオブシムシ科の 脱皮殻 (コウチュウ目)	本科の幼虫は、多数の剛毛をそなえる。また、幼虫は乾燥動植物質を食するため、屋内に侵入して、毛織物、毛皮、乾肉、干魚などを害することがある。
洗濯したズボンの中に虫のようなものがいた	 脱皮殻、黒色、約6mm	ナミテントウムシの 脱皮殻 (コウチュウ目)	終齢幼虫の体長は約10mm。体は、紡錘形で胸・腹部には著しい刺状突起がある。本種は年に数世代を営み、成虫・幼虫ともにアブラムシ類を捕食する。
マンションの周辺にコバエが多数飛んでいる	 成虫、黒色、約5mm	ヒメイエバエ科 (ハエ目)	早春から発生する小型のハエ。幼虫はごみ、人畜の排出物、動物の死体などあらゆる腐敗物に発生する。
倉庫内にコバエが大量に発生している	 成虫、黒色、約4mm	ハナバエ科 (ハエ目)	種によって異なるが、春から夏に発生する。成虫は人畜の排泄物や動植物の腐敗物などに集まる。
ホテル客室の洗面台排水口付近に虫がみられる	 幼体、銀白色、約6mm	シミ科 (シミ目)	多くの種は野外に住み、腐敗物を食べているが、一部の種類が家屋に住みつき、書籍や掛け軸、壁紙などを食害する。暗いところを好み、夜間活動性である。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
柿の木に虫がみられる	 幼虫、黒色、約15mm	マイマイガの幼虫 (チョウ目)	老熟幼虫の体長は約60mm。幼虫は雑食性でバラ科(サクラ、リンゴ、ウメなど)、ブナ科、ヤナギ科、ニレ科など多種の樹木につく。幼虫は4月ごろ孵化する。成虫は7～8月に出現する。
玄関に虫がみられる	 幼虫、黒色、約2mm	アブラムシ類の幼虫 (カメムシ目)	本種は通常春から秋にかけて発生する。いろいろな植物に好んで寄生し、気象条件や栄養条件に恵まれると大発生する。初夏には有翅形の雌が現れ、寄生植物へ移動する種が多くみられる。
玄関の木製たたきの穴から虫がでてきた	 職蟻、黄白色、約3mm  兵蟻、黄白色、約3mm	ヤマトシロアリ (シロアリ目)	職蟻の体長は3.5～5mm。兵蟻の体長は3.5～6mm。体色は淡黄褐色。寒さには、比較的強いが、乾燥には弱い。常に湿った木材や土中で生活する。加害箇所が巣を兼ねている。高山や酷寒地を除く日本全土に分布する。
駐車場に虫がたくさんいる	 成虫、暗褐色、約2.5mm  成虫、灰色、約2mm	① オオウロコチャタテ (チャタテムシ目) ② トビムシ目の一種	① 体長は約2.5mm。体は暗褐色で、前翅には鱗片が密生する。岩や石の上にすみ、緑藻類を食べる。本州・九州に分布する。 ② 多くは土壌の表面、落ち葉中、地中などに生息する。腐植物、菌類、花粉などを食べるほか、肉食も知られている。一般に繁殖力が高く、種によっては好適環境下で大発生する。

相談内容・ 発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
左上眼瞼に虫体 が付着していた	 <p data-bbox="416 472 719 544">成虫(吸血個体)、黒褐色、 約8mm</p>	マダニ属 (ダニ目)	<p data-bbox="1072 248 1439 353">体は大型で、成虫は数mm以上、吸血後には1cmを超えるものも少なくない。</p> <p data-bbox="1072 360 1439 472">角化の強い背板をもつ。発育環のすべてのステージが寄生吸血性である。</p>

【 検査研究課 医動物担当 】